

野球 第99回全国高等学校野球選手権大会

2回戦 彦根東 2—6 青森山田



球場全体を味方にした
終盤の猛追

▲前回より赤く染まった3塁側アルプススタンドからは、健闘した選手たちへの惜しみない声援が送られた。



TEAM	一	二	三	四	五	六	七	八	九	R
青森山田	0	0	1	4	1	0	0	0	0	6
彦根東	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2

8月14日の第99回全国高等学校野球選手権大会第7日の第3試合で本校と青森県代表の青森山田高校との2回戦が行われた。本校は終盤に追いつけたが及ばず、6—2で敗退した。



速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

前半、東高打線は相手投手に抑えられ、終盤勝負に向けて失点を抑えたい本校にとつては、逆に継投の投手陣が打たれる苦しい展開となった。

3回、二死二塁でタイムリーヒットを打たれ先制を許し、4回には一死二塁からホームランを打たれ2点追加された。その後も二死一、二塁でタイムリーヒットを打たれ1点追加で、走者一、二塁。ここで先発投手の原功征君(2—8)からエース、主将の松井拓真君(3—5)に交代したが、タイムリーヒットを打たれこの回4点を許した。さらに5回、またもホームランを打たれ6—0となった。6回から投げた増居翔太君(2—4)は得点は許さなかった。

本校の攻撃は7回まで5本のヒットが散発し、得点につながられずにいた。その壁を破ったのは8回。一死から2番朝日晴人君(2—4)がヒットで出塁すると、続く3番高村真湖人君(3—8)のヒットで走者一、三塁とした。そして4番岩本道徳君(3—5)のサードゴロの間に三塁走者の朝日君が本塁を踏み、1点

を取り返した。

そして迎えた9回。好守で締め、良い流れで攻撃に入つた。二死で迎えたバッターは途中出場の仲川俊哉君(3—5)。甲子園初打席の仲川君が放った打球はレフトスタンドへ飛び込んだ。そこから球場全体が彦根東ムードに変わった。勢いに乗った東高打線は1番原晟也君(3—8)の三塁打でさらに勢いづいた。しかし続く朝日君の鋭い打球は惜しくもサードライナーに倒れ試合終了。6点差、終盤意地の追い上げを見せたが、届かなかった。甲子園初勝利という歴史的な一勝を遂げ、赤鬼たちの夏は幕を閉じた。

吹奏楽部部長の明石珠実さん(2—8)は選手が巻き返してくれろと信じて最後までトランペットを吹き続けた。明石さんは「負けてしまったけど、清々しく、悔いはない。3年生は最後に甲子園で演奏できて、最高のフィナーレになったと思う」と笑顔を見せ、野球部に感謝しながら「来年は県大会で金賞をもらって、甲子園にも連れて行ってほしい」と未来を見据えた。

赤鬼の意地見せた